

平成 25 年度 事務事業マネジメントシート [事後評価]

会計	款	項	目	事業コード	事業名
一般	10	01	03	0402	生徒会ボランティア活動支援事業

事業期間	☐ 単年度繰返	☒ 期間限定	[平成 22 年度 ~ 平成 27 年度]
------	--------------------------------	--	-----------------------

《事業目的》

市民参画への意識づけ

《事業開始の背景》

中学生議会において各校学校生徒会が行うボランティア活動への支援について要望があり、生徒の自主性と社会参画を育成することから、平成22年度からこの事業を開始した。

《事業概要》

○生徒会ボランティア活動支援
ボランティア活動（学校内外・公民館等の清掃活動、エコキャップ回収、スノーバスター、環境美化活動等）を行う各中学校生徒会への活動支援

市民参画の有無 [対象外]

《事業展開の留意事項》

《成果指標》

	項	目	単位	区分	24 年度(実績)	25 年度(実績)	26 年度(計画)
①				目標			
				実績			
②				目標			
				実績			
③				目標			
				実績			

分野	担当部(機関)	担当課(機関)	担当係長	(内線)
人づくり	教育部	小中学校課	横手勝美	9-30-338

		25 年度	当初(現計)	補 正	25 年度	26 年度
事 業 費						
		600				
財 源 内 訳	国県支出金					
	地方債					
	その他					
	一般財源	600				

《事業手法の詳細》…概略図による事業手法の詳細と事業費の内訳を記載すること

生徒会ボランティア支援事業 600千円

各生徒会によるボランティア活動

支援・指導

市校長会

支援

市

計画書・報告書の提出

生徒会ボランティア事業交付金 600 千円

H25年度の主な活動内容等

- エコキャップ回収 3校
- 雪かきボランティア 7校
- 清掃ボランティア（福祉施設、公民館等） 8校
- 募金活動 2校
- 交流活動（福祉施設、地区の高齢者等） 6校

事業費の主な充当先

- 作業に使用する備品の購入（エコキャップ輸送専用箱、除雪用具、スコップ、草刈りがま等）
- 消耗品（花苗等、洗剤、ゴミ袋、手袋、スポンジ等）
- 通信費（郵便料、宅配料金等）

生徒会ボランティア活動支援事業（総括表）

平成 25 年度 事務事業マネジメントシート [事後評価]

会計	款	項	目	事業コード	事業名
一般	10	01	03	0402	生徒会ボランティア活動支援事業

総合計画	政策	地域で支える子育てと教育のまちづくり	施策	4-2	活力と特色ある学校教育の充実
目的	市民参画への意識づけ				
対象	ボランティア活動をする中学生生徒				
意図	社会の一員として、よりよいまちづくりに参画する市民に育つ。				

《事業概要》…上記目的を実現するための事業手法を記載すること					
○生徒会ボランティア活動支援 ボランティア活動（学校内外・公民館等の清掃活動、エコキャップ回収、スノーバスター、環境美化活動等）を行う各中学校生徒会への活動支援					
市民参画の有無 [対象外]					
市民協働の形態		☐ 共催	☐ 実行委員会・協議会	☐ 事業協力・協定	
		☐ 後援・協賛	☐ 補助・助成	☐ 委託	

活動指標（上記「事業概要」に対応）		単位	区分	24 年度(実績)	25 年度(実績)	25 年度(計画)
①	ボランティア活動に取り組む生徒会	校	計画	11	11	11
			実績	11	11	
②	ボランティア活動数	活動数	計画	15	15	15
			実績	17	26	
③			計画			
			実績			
成果指標（上記「意図」に対応）		単位	区分	23 年度(実績)	24 年度(見込)	25 年度(計画)
①			目標			
			実績			
②			目標			
			実績			
③			目標			
			実績			

要因分析	達成度	目標値より高い	概ね目標値どおり	目標値より低い
各校共に生徒会を中心に積極的な取組みを行った結果、活動数が増加した。				

《環境変化、意見・要望》…環境変化はないか？ 意見や要望が寄せられていないか？ 学校からは、「この事業により、活発なボランティア活動を行うことが出来、より多くの生徒たちにボランティア活動を体験させることができた」との意見をいただいている。
--

目的妥当性	公共関与の妥当性 ☒ 妥当である ☐ 見直し余地がある ☐ 妥当でない	市民参画のまちづくりを進めるためには、中学生段階から、自ら地域貢献活動を計画・実行する意識づくりを行う必要がある。
有効性	成果の向上余地 ☒ 向上余地がある ☐ 向上余地がない	年度を重ねるたびに、生徒会執行部が中心となる取組が増えている。
効率性	事業費・人件費の削減余地 ☐ 事業費の削減余地がある ☐ 人件費の削減余地がある ☒ どちらも削減余地がない	事業を実施するうえでの最少の経費を見込んでおり、これ以上の削減は困難である。また、人件費は経費に見込んでいない。
公平性	受益と負担の適正化余地 ☐ 受益機会の見直し余地がある ☐ 費用負担の見直し余地がある ☒ 適正である	中学生がボランティア活動に積極的に取組み、地域へ貢献することは公共性が極めて高く、市が負担することは適正である。

《総合評価》…上記評価結果の総括 中学生が地域のボランティア活動に取り組む、地域の方々と交流することは、よりよいまちづくりに参加する態度を育てるために大変有効である。また、生徒会活動を活性化させる意味でも意義は大きい。
--